次期学習指導要領 教科別まとめ　　中学校 No.06

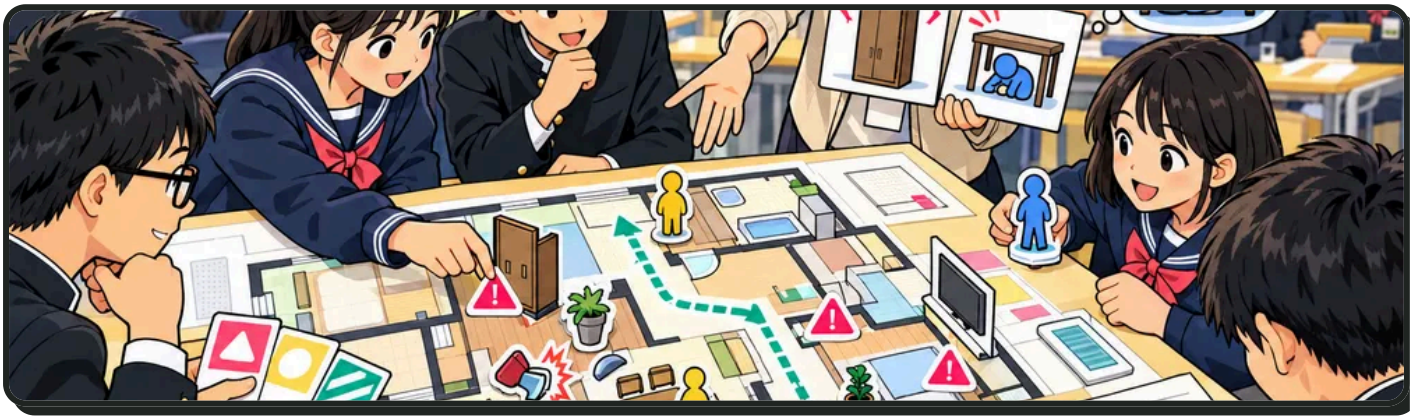
審議まとめ（2026年10月5日）を**中学校の先生向け**にまとめ直しました

家庭

次期学習指導要領で、どう変わる？

領域を5つに再編し、中学校では独立した教科に





10秒でいうと　技術・家庭科から「家庭科」が独立した教科に。金銭管理と消費者の権利を新B領域で統合

やさしく言うと

中学校では、技術・家庭科が「情報・技術科」（仮称）と「家庭科」に分かれ、家庭科が独立した教科になる方向です。領域は小・高と同じ5つに再編する方向です。新しいB領域では、金銭の管理と消費者の権利をまとめて学ぶ方向です。住生活では、家全体の中で危険を見付けて対策を考える学習を丁寧に行う方向です。高齢者との関わり方なども充実させる方向です。

中学校はいつから？

全面実施	2031年度（令和13年度）から（見込み）
移行期間	2028～2030年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2031年度から新しい教科書（2029年度に検定）

この冊子の中身

1 家庭のポイント　4つ
2 主な変更点　6項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　6項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　3項目
6 今からできる準備チェックリスト　6項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 現行の学習指導要領・解説（中学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

家庭の3行要約（全校種）

1. 中学校の技術・家庭科は「情報・技術科」と「家庭科」に分ける方向で、家庭科は独立した教科として新しい目標が検討されます。
2. 小・中・高を通して、領域が「家族・家庭と生涯発達」「生活の経営と消費生活」「食生活」「衣生活」「住生活」（いずれも仮称）の5つに再編する案で、一部の内容は学校段階をまたいで移す方向です。
3. 高校では、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動が各領域の中の「生活の課題と実践」（仮称）とし、「家庭総合」には領域を貫く「総合生活実践」（仮称）を加える案です。

※5領域の名称、「生活の課題と実践」、家庭総合のF領域「総合生活実践」は仮称。

1 家庭のポイント

4つ

1 家庭科が独立した教科に

今の技術・家庭科は、免許や担当教員は別なのに、評定は一つの教科として付けています。このデメリットが大きいとして、家庭科を独立の教科とする方向が示されました。そのため、家庭科として新しい目標を検討する必要があるとされています。P74 P223

授業では、たとえば 技術分野の先生と、評定や年間計画の分け方を話し合い、家庭科だけの指導計画の案を作っておく準備が考えられます。

2 お金と消費を新しいB領域でまとめて学ぶ

今の「金銭の管理と購入」と「消費者の権利と責任」を、新しいB領域にまとめる方向です。消費と環境を一体的に学ぶねらいです。高校で扱っていた「生活の営みに必要な金銭」や「生活時間」も中学校に移す方向です。キャッシュレス化への対応なども、発達段階をふまえて扱います。P227 P231

授業では、たとえば スマートフォン決済の便利さとリスクを比べ、1か月のこづかい計画を立てて見直す、といった授業が考えられます。

3 住生活は家全体で危険を見付けて対策

中学校の住生活では、間取り図なども使って住まいの空間構成をとらえる方向です。そのうえで、家全体の中で危険を見付けて対策を考え、家庭で実践する一連の学習を丁寧に行います。「家庭内の事故の防ぎ方」は、高校で重点的に学ぶ方向です。P232

授業では、たとえば 教材用の間取り図を使って、つまずきや転倒の危険がある場所に印をつけて対策を考え、その考えを家庭で家族と話し合う、といった授業が考えられます。自分の家を扱うときは、間取りを提出・共有させない配慮が必要です。

4 社会の変化に合わせた内容の充実

地域の高齢者が増えていることをふまえ、認知機能などの低下や、状況に応じた関わり方を中学校・高校で扱う方向です。食文化など生活文化の継承を重視する学習も、中学校・高校で扱います。衣服の再利用は、衣服のライフサイクルを考えた選択・活用の一つとして扱う方向です。P231 P232

授業では、たとえば 地域の高齢者の方の話を聞き、聞こえにくさなどに配慮した話し方を考えて交流する、といった授業が考えられます。

2 主な変更点

6項目

1. 中 中学校：技術・家庭科から「家庭科」を独立させる方向

今の技術・家庭科は、免許や担当教員は別なのに評定は1つの教科として記載しているなどのデメリットが大きいとされました。そこで家庭科を独立の教科とし、技術分野は「情報・技術科」とする方向が示されました。家庭科として新たな目標を検討する必要があるとされています。P74 P223

2. 小 中 高 領域をA〜Eの5つに再編（「家庭総合」はFを加えて6つ）

「生活の基盤」に関する領域として「A 家族・家庭と生涯発達（仮称）」（人に関すること）と「B 生活の経営と消費生活（仮称）」（暮らしの営み方＝マネジメント）を置く案です。「生活を構成する要素」に関する領域として「C 食生活（仮称）」「D 衣生活（仮称）」「E 住生活（仮称）」を置き、食育の重要性も踏まえて「食・衣・住」の順に並べる案です。生涯の生活設計と消費生活はB領域で関連付けて扱い、消費者教育や金融経済教育もBに明示する方向です。P225 P230 P231

3. 小 中 高 内容の移管・統合：住まいの働きや家庭内事故は高校へ、金銭管理は中学校へ

小学校の「住まいの主な働き」と中学校の「家庭内事故の防ぎ方など」は、最も効果的に理解できる高校へ移す方向です。中学校の「金銭の管理と購入」と「消費者の権利と責任」は新しいB領域でまとめ、消費と環境を一体的に学ぶ方向です。高校「家庭総合」にあった「生活の営みに必要な金銭」と「生活時間などの生活資源」は、中学校のB領域「家庭生活と生活資源のマネジメント」に移す方向です。中学校の住生活では、間取り図などで家全体の危険を見付けて対策を考え、家庭で実践する流れを丁寧に行う方向です。P226 P227 P232

4. 小 中 高 布を用いた製作・衣服の再利用の扱いを整理

小学校の「生活を豊かにするための布を用いた製作」は新しいD(2)「布を用いた製作の基礎」に、中学校の同じ項目はD(2)「生活を豊かにする布を用いた製作」に整理する案です。布を用いた製作は、小・中・高のつながりを踏まえ、知識・技能を段階的に身に付けて活用する内容とする方向です。中学校の「衣服等の再利用の方法」は、衣服のライフサイクルを意識した選択・活用の一つとして、必要に応じて製作の学習で取り入れる方向です。P226 P232

5. 中 高 社会の変化に合わせて充実する内容（高齢者・健康・お金・生活文化）

地域の高齢者が増えていることを踏まえ、認知機能・身体機能・言語機能の低下や状況に応じた関わり方を中学校・高校で学ぶ方向です。高校のA領域を中心に、青年期から自分の健康状態や生活習慣を整える学習を行い、社会保障や奨学金などの社会制度の活用も高校で扱います。キャッシュレス化への対応やリスク管理を踏まえた家計管理など、自立した消費者を育てる学習も発達の段階に応じて扱う方向です。生活文化の継承の観点をより重視する学習は、食生活では中学校・高校で、衣生活・住生活では高校で扱う方向です。P225 P231 P232

6. 評価：「学びに向かう力」は「見取る姿」で個人内評価、「思・判・表」に「○」

「学びに向かう力」については、「初発の思考や行動・好奇心」「学びの主体的な調整」「対話や協働」の3要素からなる「見取る姿」を示す予定です。教師は思考・判断・表現の学習過程の中で、これらの姿が続けて発揮されているかを見取り、見取れた場合は「思・判・表」に「○」を付けて一体的に評価します。この部分は個人内評価（他者と比べない評価）として扱う方向です。P233

3 現行と次期の比較（新旧対照）

6項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
中学校の教科の形	技術・家庭科（家庭分野）。免許・担当教員は別だが、評定は1つの教科として記載。	**家庭科を独立の教科**とし、技術分野は「情報・技術科」とすることが適当とされた。P74 P223
「家庭総合」の履修年次	複数年次に分けて履修する場合は原則として連続する2か年。内容のCは原則として入学年次とその次の年次の2か年のうちに取り上げる。	連続2か年の規定を見直し、隔年での実施なども可能に。2か年のうちに取り上げる規定は**B領域**（生活の経営と消費生活）として明記。P224 P228
「家庭基礎」と「家庭総合」の違い	科目の目標や学習内容に明確な差異が見いだしにくく、教科書の記述にも大きな差がない。	家庭基礎＝生活を営み家庭や地域の生活を「支える」力、家庭総合＝**多面的**に生活を捉え家庭や地域の生活を「向上させる」力を育てる科目として趣旨を明確化。P224 P227
見方・考え方	「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の事項を示していた。	家庭科の**本質に焦点化**して短く示し、**小・中・高で統一**。上記の要素は「統合的な理解・総合的な発揮」の中で内容に即して示す。P229
中学校の消費生活の項目	C(1)「金銭の管理と購入」とC(2)「消費者の権利と責任」に分かれている。	新しいB領域で**整理・統合**し、消費と環境を**一体的**に学ぶ。思考・判断・表現の指導事項も統合。P227
住まいの働き・家庭内事故の防ぎ方	小学校B(6)ア(ｱ)「住まいの主な働き」、中学校B(6)ア(ｲ)「家庭内事故の防ぎ方など」で扱う。	**高校へ移管**。家庭内の事故の防ぎ方は高校の「**ライフステージに応じた住生活**」で重点的に学ぶ。P227 P232

4 授業時数

中学校で独立させる方向の家庭科の時数は本文に示されていない（総論では、小3以上の教科等から一律3～4%程度を減じるが現在35コマ以下の教科等からは減じず、具体の数値は今後示すとしている。P79）。高校の家庭基礎は、必履修教科ごとの合計が3新単位以下となる減単が不可のため減単不可とすべきとされた（P47）。家庭総合は「連続する2か年」の履修規定を見直す方向（P228）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

3項目

1. 生成AIなどの特性をふまえた情報収集・活用
集めた情報から考え、根拠を持って自分の考えを他の人に伝えるためには、生成AIなどの特性をふまえた適切で有効な情報収集・活用が求められるとされています。デジタル技術の操作そのものを目的にせず、実践的・体験的な活動を通して力を育てる観点で活用を考えます。P225

2. 家庭科のAI活用の基本的な考え方
子供が自分で考え、判断し、成果物を自分の言葉で説明し、最終的に自分で責任を持つという考えのもと、教師は問題解決的な学習を展開し、評価方法を改善することが当面の基本的な考え方とされています。P233

3. 1人1台端末を問題解決的な学習の基盤に
端末を問題解決的な学習に必要な学習基盤として位置付けるとされています。例として、調理や製作の様子を動画で撮って分析する、実践の前後を画像で比べる、3Dで住まいの間取りを計画する、が挙がっています。資料編には、AIを活用した情報の収集・整理や、AIを活用した客観的な評価の例も示されています。P233 資料編(2)P122

6 今からできる準備チェックリスト

6項目

- [ ] 今すぐ 題材の課題設定が先生主導になっていないか点検し、子供が自分の生活を見つめて問題を見いだし、課題を設定する時間を各題材に入れます。P223
- [ ] 今すぐ 調理や製作の様子を動画で撮って分析する、実践の前後を画像で比べる活動を1つの題材で試し、撮影範囲（手元だけなど）や撮ったデータの扱いのルールもあわせて決めます。P233
- [ ] 今すぐ 生成AIを使う場面を設けるときは、子供が自分で考え判断し、成果物を自分の言葉で説明し、最後は自分で責任を持つことを条件にし、その説明を評価する方法も決めておきます。P225 P233
- [ ] 告示まで 今の年間指導計画の題材を、新しい5領域（家族・家庭と生涯発達／生活の経営と消費生活／食生活／衣生活／住生活、いずれも仮称）に振り分け直し、移される内容（小学校の「住まいの主な働き」と中学校の「家庭内事故の防ぎ方など」は高校へ、高校の金銭・生活時間などの生活資源は中学校へ）を確認します。P225 P227 P230
- [ ] 告示まで 中学校では、家庭科が独立した教科になる方向をふまえ、これまで技術分野と合わせて1つにしていた評定の根拠を、家庭分野だけで説明できるよう評価の記録を分けて整理しておきます。P74 P223
- [ ] 全面実施まで 「学びに向かう力」の見取る姿の3要素（初発の思考や行動・好奇心／学びの主体的な調整／対話や協働）を手掛かりに、思考・判断・表現の過程で姿を記録する方法を試し、「○」を付ける評価に備えます。P233

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

中1　1単位時間（50分）

間取り図で家じゅう点検！地震に備える住まい

架空の家の間取り図で、家族それぞれの立場から危険を探し、自分の家で1つ実践する計画を立てます。

手順・ワークシート

ねらい

間取り図から住まいの空間構成を読み取り、家族の立場や時間帯を変えながら地震のときに危険になる場所を見付け、優先順位を考えて対策を選び、自分の家で実践する計画を立てる。

流れ

- 5分 架空の家の間取り図を配り、開き戸・引き戸・窓・階段などの記号と、部屋のつながり（玄関までの通り道）を全員で読み取ります。
- 12分 個人で、地震が起きたときに危ないと思う場所に赤シールをはり、その理由をメモします。続けてグループで見比べ、家具の転倒、ガラスの飛散、避難する通路をふさぐ物などの観点で整理します。
- 10分 先生が「夜、みんなが寝ているとき」「幼児が一人で遊んでいるとき」「祖母が台所にいるとき」と場面を変えて示し、グループで黄シールを追加します。同じ家でも、家族の立場や時間帯によって危険な場所が変わることを確かめます。
- 13分 見付けた危険に対する対策を対策カードに書き、効果・手間・費用の3つの観点で優先順位を話し合います。先生は「寝ている場所に倒れてくる物がないか」を最優先に考えるよう助言します。
- 10分 家庭実践計画シートに、自分の家で家族と相談して取り組む対策を1つ書きます。自分の家の間取りや家の中の写真は学校に出さなくてよいことを伝えます。数人が計画を紹介し、実践後に振り返る日を確かめます。

評価

思考・判断・表現は、家族の立場や場面を変えて危険を見付けているか、対策の優先順位に理由をもっているかを、シール図とカード、計画シートで見取ります。知識・技能は、間取り図から空間構成や避難の通り道を読み取れているかで見ます。家庭での実践後の振り返りで、家族との対話を通して自分の考えを捉え直している姿は「対話や協働」の手掛かりとして記録します。

現行の学習指導要領・解説（中学校）

PDF **中学校学習指導要領(平成29年告示)(本文)**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf

PDF **中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 技術・家庭編**
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_009.pdf

文部科学省の公式PDFです(クリックで開けます)。

ご利用について

サイトで最新版を見る

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  (校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど)
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  (https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/)はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」(2026年10月5日)ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。(仮称)の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体(PDF)のページ、**資料編(1)～(3)P○** は第3部 資料編(PDF)のページです(PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります)。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで:
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/(2026年11月4日 版)